

「東京ベイエリアビジョン」（仮称）の検討に係る官民連携チーム総括会議（第2回）

日時：平成31年3月8日（金）15時00分～16時30分

場所：都庁第一本庁舎 16階 特別会議室S6

【伊東計画担当課長】 定刻になりましたので、東京ベイエリアビジョンの検討に係る官民連携チーム第2回総括会議を開会いたします。

皆様、本日はお忙しい中をお集まりいただき、誠にありがとうございます。まず初めに、本日のご出席メンバーの皆様を紹介させていただきます。官民連携チームを総括するコーディネーターの千葉大学大学院工学研究院教授、村木美貴様。

【村木コーディネーター】 村木です。よろしくお願いいたします。

【伊東計画担当課長】 続きまして、魅力あるまちづくりワーキンググループ座長の東京大学大学院工学研究科准教授、中島直人様。

【中島座長】 中島です。よろしくお願いいたします。

【伊東計画担当課長】 続きまして、活力と躍動感のあるまちワーキンググループ座長の首都大学東京大学院都市環境科学研究科准教授、岡村祐様。

【岡村座長】 岡村です。よろしくお願いいたします。

【伊東計画担当課長】 最先端技術のまちワーキンググループ座長の東京大学大学院工学研究科特任准教授、松尾豊様におかれましては、15分程度遅れる旨のご連絡をいただいております。

この官民連携チームは、次世代を担う若手の視点や自由な発想を生かし、行政の枠を超えた検討を進めることを目的に昨年10月に設置して以降、3つのワーキンググループごとに、活発な議論をして頂きました。その後、昨年12月に開催した第1回総括会議での議論を踏まえ、第1回の提案を取りまとめ、ベイエリアビジョンの庁内検討委員会に提出をいただきました。本日の会議では、ワーキンググループにおけるその後の検討内容についてご報告をいただき、第2回の提案内容についてご議論いただきます。

なお、本会議は公開とさせていただいており、傍聴の方や報道関係者の方も参加いただいていること、また、配付資料、議事録につきましては、後日ホームページに公開させていただきますことを申し添えます。

それでは、以降の議事進行につきまして、村木コーディネーターにお願いいたします。

【村木コーディネーター】 皆様、本日はお忙しい中、ご出席いただきまして、誠にあり

がとうございます。前回、12月の総括会議では、主に提案に向けたコンセプトや、基本的な考え方につきまして各ワーキンググループの座長の方々からご報告いただきました。その時に私から、今後、ベイエリアで目指すべき方向性やビジョンを明らかにすることと、東京の価値を高め、そして魅力も高め、世界から人と投資が集まる、そういう施策の方向性について引き続きご議論いただきたいという意見を言わせていただいたと思います。

今日の議事は、まず各ワーキンググループの座長の方々から、その後の議論を踏まえて取りまとめていただいたご提案についてご説明をお願いしたいと思います。ワーキンググループのご説明ごと、私から質問や意見を申し上げますけれども、座長の皆さんも前回と同じように、他のグループの提案についてご自由にご意見いただきたいと思います。

それでは、まず最初に魅力あるまちづくりワーキンググループからの提案について、中島座長からご報告をお願いいたします。

【中島座長】 魅力あるまちづくりワーキンググループ、第2回提案でございますが、前回の提案では大きくまちの空間構成の話をさせていただいたのですけれども、その後の議論で基本的なまちづくりの方向性をしっかりと共有しようということで、このベイエリアが東京と社会を先導するということの具体的な中身は、ベイエリアのまちづくりがその創造性と多様性と持続可能性を持っていることだということを確認しました。そして、魅力あるという時の、伸ばすべき魅力とは何だろうかということも議論しました。今日は分析の説明は省きますけれども、インフラストラクチャー、ネイチャー、フード、ナイトエコノミー、ウォーターフロント、そしてアミューズメントという、この6つの魅力を混在させていくようなまちの姿があり得るのではないかとということもまず最初に大きく議論しました。

前回、ベイエリアといっても色々な空間特性があるということも申し上げましたけれども、それぞれに合わせてその6つの魅力が混在しているという将来像を描いていますが、そういうものを掛け算すると誰もが快適に過ごせ、創造意欲あふれる魅力高いエリアであり続けるのではないかと考えました。それを具体的にどのように描くかということが、魅力あるまちづくりワーキンググループの課題となる訳です。大きくまちの骨格の基盤の構想の話と、あと特定の、集中してインテンシブに検討していくようなエリアの話と大きく2つあります。まちの骨格に関しては、これも前回の流れがありますので、少し省略しながら紹介します。公共交通網の充実の話は、これは前回のとおりでございますので省略しますが、小さなエリアの回遊ネットワークについて、どのように回遊性を持たせるかを今

色々議論しているところで、パーソナルモビリティの活用もありますが、小さなブリッジみたいなものなど、色々なハードなインフラとしても考えていこうとしております。

もう一つ、基盤に関し、公共投資としてやるべきことに、公共空間、オープンスペースがありますが、我々が前回からの間で色々議論した中で、やはりこのベイエリアでは当たり前ですけれども、臨海、水辺というものが大事なのだということを再認識して、その水辺からまちを考えようとしています。水辺と一体的な場をどれだけたくさんつくれるかがポイントではないかと考え、コンセプトの中心に置いています。その時に、例えば今の水際線をどのように変えていくか、これはイメージですが、今、海と陸との間が1つの直線で区切られている所を、どのようにしてもっとやわらかな水際をつくってゆくかという話や、あるいは水際の建物の、水際というものをどう生かすかという時、もちろん風景とか景観とか色々あるのですけれども、例えば海水を利用したクーリングシステムみたいなものが水辺の建物に実装されるといったようなことが大事ではないかと考えています。

全体として、こういった環境の先端技術を、しかも、自然の力を生かしたものを最先端のビルの中に入れていくことで、LEEDとか、あるいはESG投資等を呼び込むような1つのキーになるのではないかと考えています。水辺をキーにしながらの空間づくりと、水辺のパブリックスペース等での活動、現在のオープンスペースが非常にパブリックライフ、アクティビティに欠けているということで、それをどう生み出していくかという話と、あとやはり徹底的に緑を創出してゆくことを全体の方針として打ち出しています。それを踏まえて我々として全体の方針を実際にどこに落とし込んでいくかということですが、「東京臨海リング」と「先端イノベーションエリア」の2つにエリアを分けて考えました。基本的に東京臨海リングは現在ある程度のにぎわいの集積等がありつつ、かつ土地利用の大きな転換が起きそうな所があるという点をうまく生かし、ここに投資を呼び込み、魅力を集ませようという考えです。リングと呼んでいるのは、内海を中心として、水際に力を持っていこうということです。

東京臨海リングは大きな投資が入る可能性がある所ですが、それと対になるのが先端イノベーションエリアとイノベーションを生み出す実験フィールドという形になります。東京臨海リングのほうで、一番大事なところは、都心側の対岸である芝浦などの物流機能を将来的には転換するとともに、お台場・豊洲・有明なども含めて、一緒になって魅力ある1つのエリアとして、空間をつくっていくことを提案しようというものです。

スライド17ページは2040年の姿のイメージで、基本的には1つ1つの水際をどのように魅

力的にするかということ、今ある資源も生かしつつ、そこに足りないものを入れていたりするということを考えています。また、水際同士を結びつけるものとして、例えばシャトルフェリーの運航など、水際に注力させようという考えです。臨海部が大事なのはやはり臨海であるということで、今は駅を中心としたまちづくりが臨海でも行われていますが、駅を中心としたまちづくりは臨海でなくてもできるので、臨海部では、本当に水際を生かしたまちづくりをしようという提案です。

その上で、どういう魅力をこのエリアで特に育てていくかという時に、やはり国際的競争力を持っているコンテンツとしての食やデザインというものをしっかりと打ち出していくことが1つ目として重要です。そして、他にはない大規模な刺激的な文化、エンターテインメントという、2点を中心に場をつくっていただきたいと思います。1つの施設で、その中で閉じてとどまるのではなく、こういうテーマを持った界限というか、複数のものが集まったようなクラスターみたいなものをつくることをイメージしています。それを2040年に向かってどのように順番にやっていくか、どういう戦略でやっていくかということを整理しました。

先ほど申し上げた芝浦埠頭や品川埠頭は現在現役ですが、将来的に港湾施設の利用転換を図り、跡地を用途転換するスピードに合わせながら全体を育てていく形で考えています。前回の第1回の提案の際もご指摘いただいたように、具体的な土地利用や配置にどのように落とししていくかということ、現在検討しています。今言ったようなことを具体的に考えてみるとどういうことなのかというのを、少し具体的な空間で考えた時に、色々と考えるべきことと課題が見えてきます。

例えば、全体的なレイアウトイメージに関しては、文化、エンターテインメント、あるいはIRと言われるようなものを、新しくできる国際客船ターミナルを中心とした辺りに持ってきた時にどういうことができるか、あとは水際と陸とを一体として考えた時に、現状として道路が間にあるため一体利用が難しいが、その道路の付け替えみたいなことが本当にできるかどうかなど、具体的なレベルで検討していこうということです。

スライド24ページで示しているのは、水際がリングとしてつながっていくような将来像で、実現に向けて必要なものの整理などを行っています。先端イノベーションエリアのほうは、中心となるのは新木場の辺りですが、先ほどご説明した東京臨海リングが内海に展開していくのと違い、既存のストックをどのように生かしながら、特に新しいものを生み出すような人たちをどう集めてくるかということ、今考えています。中身はまだ検討レベ

ルですが、イノベーションを起こすための既存の仕組みを勉強しながら、それを臨海部ならではの視点でどう展開するかを検討しています。

先端イノベーションエリアも現状としては、イノベーション拠点という形にはなっていないのですが、倉庫、特にこの海際の倉庫というストックを使いながら、小さな単位で事を起こしていこうということです。先端と書いてあるのは、先端というどうしても1つの価値観の中での一番先っぽということになるのですが、先端は多様性を持った概念で、色々な分野のそれぞれ、オンリーワンというような人たちなど、そういうものを取り込んでいこうという考えです。具体的にどのように展開するかというのは、現在議論しているところです。

スライド25ページの図を見ていただければ、大体イメージが湧くかと思います。最終的に東京臨海リングとの結びつきを考えていこうということと、大規模実験フィールドである、いわゆるXLサイズの所の使い方と結びつけようということを提案しております。一番大事なところは、実現に向けて、どのように既存の仕組みや制度を変えていくかということで、このあたりはまさに我々のメンバーの方々が実際に色々な直面している課題があり、そういうものについて整理をしているところです。何よりも1つは民間投資を誘発するための取組ですけれども、先ほど説明した海際の公共空間のような先行的公共投資と合わせて、規制・計画の柔軟化を幾つかのフェーズで議論をしており、スライド32ページの4点に整理しております。

あわせて、これは投資をした後の経営の話ですけれども、前回もエリアマネジメントの話をしました。改めて考えてみると、官民連携のLLPのような組織をつくらないと、これはなかなかうまくいかないのではないかとということで、そのあたりの具体的なスキームの作り方等も含めて次の提案に向けて深く検討していきたいと思います。

【村木コーディネーター】 ありがとうございました。

ここから少し議論したいと思うのですが、まず最初に私から少しコメントさせていただきたいと思います。前回の提案に比べてかなり具体化した印象を受けたというのが最初の感想です。私自身は、世界都市ランキングで見てきた時に、東京はそれなりの高い所に位置しているけれども、かなり規模のある面的再開発事業等で見てみると、決して東京はそれほど上手じゃないように思います。例えばロンドンオリンピックサイトでは、誰も行きたくなかった土地の大きな変化というのは、交通もそうですし、それからあと民間投資をどうやって呼ぶのかということ、開発をどれだけ持ってくるのかということ、そし

てあと開発手続きのワンストップ化と、全部ここで言われているようなことが入っている。なおかつ、低炭素であるという、地域づくりのところも入っているので、プラスアルファで何かを行わなければ東京はもっと目立っていかないというところがあるように思います。

その時に、今日も中島先生が強く言われていた水際というのが、ロンドンの川や運河に比べて、海というのはとても大きな要素であり、なおかつ、対面に羽田があるということは、ある意味非常に大きなポテンシャルなので、それをどうやって生かしていくのかがすごく大事なのだと思います。今日の資料、よくまとまってきたと思いました。もう少し欲を言わせていただくと、その中でのプライオリティがもう少し明確になるといいなと思いました。それは何故かという、この後、官民連携チームの議論を踏まえて、東京都が最終的なビジョンの策定をする時に、優先的に取り組んでもらいたいことの要素を明確にするということと、あと、日本の中で東京がリーダーであるという状況をより強く主張していくためには、どこから取り組めばいいのか考える必要があると思います。

私自身、やはり思ったのが、今日も資料の説明の中で何度も出てきたと思いますが、世界からの投資と、来訪者がベイエリアに来る。それと海があるということは、非日常ですよ。音が出ていいとか、イベントしていい、それを考えて投資が集まるといった時に、I RとM I C E、これを最初の展開として位置づけるのは、私は非常に大事ではないのかなと思うのですが、ワーキングの中で強く出していくほうがいいのかということをもう少し検討していただきたいと思います。I Rについては、結構、反対される方も、東京都民の中にもいらっしゃるかと思いますが、全体面積でいったら3%だということと、あと他都市がI Rに手を挙げることが言われている中で、東京都としてはどう考えていくのか。税収の観点からいっても、I Rにより得られる収益は、東京都民の受けるメリット、これもすごく大きいですよ。ただ、次作として、I RやM I C Eを考えない場合、人が呼べそうな台場や青海エリアの再編として何があり得るのかといったところも、もう少し考えていただくことが必要だと思います。

基本的には民間が投資するというのは、つまり、投資を回収する事が必須になるので、儲かるビジネスと、あと、儲からなくてもこの地域にあったら、より都民が喜ぶであろうもの、その2つの抱き合わせだと思います。活力と躍動感あるまちワーキングと最先端技術のまちワーキングから出てくるものとの抱き合わせなのかもしれないし、また、魅力あるまちづくりワーキングの中で、そのプラス・マイナスみたいなものがあるのかもしれないと、そんな感じのことを思いました。中島先生、それを受けて何かあったら、また、岡

村先生も何かご意見があったら、是非お願いします。

【中島座長】 プライオリティについて、先ほどの投資の話でいくと、ある程度見通しがつくような、短期的にでも回収できるような魅力のあるコンテンツと、あと少し長期的だけれども回収が可能かもしれないものをうまく混ぜたいなと実は思っています。前者がまさに短期的と言うと語弊があるかもしれませんが、今、村木先生がおっしゃった I R や M I C E の話で、そこは魅力あるまちづくりワーキングの中でも大事だという結論になっています。具体的にどういう場所でできそうかということですが、やはりお台場の中での、特に国際客船ターミナルができるような場所というのはふさわしいのではないかと考えています。そこに実際未利用地もあるので。

ただ、検討する中で感じたのは、青海の未利用地があまり魅力的じゃないというか、海から離れている場所にあるので、どのような海際にしていくか、何かその戦略がやはり大事なのかなと思います。M I C E や I R を、開発したくなる人たちがその土地の魅力を感じるよう、もう少し魅力づくりが必要で、そこら辺のことをまず考えています。また、長期的な戦略としては、少しお話ししますと環境の、低炭素というところに関係しますけれども、低炭素のみならず、E S G のもっと広い概念の中でこの海際だからこそできるような、環境的で非常に先進的なものを取り入れて建物を考えたいなと思っています。これはかなり長期的に回収するようなイメージもあるのですけれども、そういうものを組み合わせながらという話だと思います。そういった魅力づくりや、エコといった視点で、海際に展開していくようなことを提案しています。

【村木コーディネーター】 今のお話は、多分、建物を建てる際に取り組むものと、あと地域全体で取り組むことと、2段階で考えることだと思います。また先ほど道路の付け替えの話がありましたが、海際に魅力ある土地をつくっていくという観点で、道路の付け替えに加え、公園も一緒に考えていただくといいのかなと感じます。

【中島座長】 おっしゃるとおりだと思います。公園が広過ぎて、敷地が公園に接しても、公園から海までが遠いと感じるので、そのあたりを柔軟に考えて、公園の中にも建物が入って来られたり、敷地を交換したりしながら、本当に水際というものを生かしたいと考えています。

【村木コーディネーター】 ありがとうございます。

岡村先生、何かありますか。

【岡村座長】 ワーキングの中で議論されたどうか教えてほしいのですけれども、1つ

は、オリンピックのレガシーを生かしていくか、そういう議論があったかどうかということと、今回エリア分けしていただいて、大田区とか品川の南部のほうの工業地帯とか埠頭の所は、今回のエリアから抜けていると思うのですが、その辺をどうしたらいいかという議論があったかどうかという点を教えてください。

【中島座長】　　オリンピックのレガシーは、まさにこの東京臨海リングの中でしっかりとやっていく。特に有明などに膨大な都有地がありますので、そのあたりを使っていこうと。ただ、その時に、前回の総括会議でも議論させていただいたかもしれませんが、スポーツの拠点については、大きな施設だけを置くのではなくて、どちらかという文化としてのスポーツみたいなものもしっかりと味わえるような、例えば住宅と一緒にあるなど、気軽に使えるものもあわせたような、スポーツが定着するようなエリアを、例えば今の有明コロシアムなどの近くに展開するのはいいのではないかという議論をしているところです。

もう一つの大田区側に関しては、まだ考えられていません。今回、東京臨海リングという形に絞ったのも、全体を考えて分散させるよりも、プライオリティの話で、大きく言うと東京臨海リングの部分にしっかりと投資を入れていかないと、その後も続かないと考えています。分散させるよりは、ここに集中して考えようということにして、まだ大田区の辺りは考えられていないので、むしろ、他のワーキングから色々提案があれば、それを受け止めることは考えています。

【岡村座長】　　分かりました。もう1点なのですが、東京臨海リングのほうで、一体感を出してネットワークしていくところ、大事だと思うのですが、基本的にはウォーターフロントの部分というのは現状では途切れますよね。何かうまく物理的につないでいくような方法を考えていらっしゃいますか。

【中島座長】　　最終的には途切れさせないということなのですが、現状ではまずシンボリックな意味で、船を使うことで結びつけようということだったり、あとは自転車の専用道など、何か目に見える形で結びついているというものを先行的につくっていくことが大事ではないかということは議論しています。ただ、まだ具体的にこれだということではないのですが、リングというものがイメージとしてあるというよりも、やはり実際にそこを巡れるということが大事だと捉えていますので、今のご意見を踏まえて具体的なものをこの後考えていきたいと思っています。

【村木コーディネーター】　　ありがとうございます。

松尾先生、何かありますでしょうか。

【松尾座長】 東京臨海リングと先端イノベーションエリアの関係は時代とともに変わっていくという理解でいいでしょうか。

【中島座長】 スライドでは16ページにも書いてありますけれども、何か相互の関係性みたいなものがあって、基本的には先端イノベーションエリアで生み出されたものが、その後成長していくと東京臨海リングのほうで表に、水際に出てくるということをイメージしていて、かつ、水際からまた新しいものに変えるということで先端という関係でして、地理的には、この境界は、それこそ時代で変わるかなとは思っています。先端イノベーションエリアは何となく新木場の辺りを見ながら考えているところです。関係性としては基本的にはこういう相互の関係性だということで、あまり変わらないと思っています。

【松尾座長】 ありがとうございます。

【村木コーディネーター】 1つお伺いしたいことがあって、最後のスライドでベイエリアのマネジメントの話などが出てきて、東京都の強いリーダーシップとありますよね。これも大事なのですが、ベイエリアには区が複数あるじゃないですか。これらの区との関係みたいなものは、何か話題に出ているのでしょうか。というのは、例えばロンドンだと、オリンピックサイトは4行政区から成っています。開発許可などは全て1つの組織がやっていますけれども、結果として学校サービスなどは全部地元区で行っています。サービスの差や、せっかくマスタープランをつくっても、結果的に土地利用して、そこに人が張り付く状況になっていった時に、全部それを東京都一括でやるのか、そのあたりも含めて何かもしありましたらお願いします。

【中島座長】 今おっしゃっていただいて考えたのですが、まさに4区がバラバラだから、むしろそれを1つ強いリーダーシップで東京都がやればいいのかと思ったのですが、一方で多様性というか、各区のやるべきこともあるかなと思っていて、その区分けを明確にしたほうがいいのかと思いました。生活基盤や生活施設はもしかしたら区がやったほうがいいのか、何かそういうものを次回の提案の中で考えてみたいと思います。4区があることがマイナスだけではないのかなと思うこともありまして、その辺も取り入れます。

【村木コーディネーター】 はい、どうもありがとうございました。

それでは、次に進みたいと思います。活力と躍動感のあるまちワーキンググループからの提案について、岡村座長、お願いいたします。

【岡村座長】 岡村です。活力と躍動感のあるまちワーキングです。我々の前回の提案では、このように4つの柱を出ささせていただいたのですが、官民連携のワーキングのチームとして、より尖った提案をすべきということで多少、提案内容もリファインしてまいりました。ベイエリアの独自性として水辺があること、広大な空間スケールがあること、それとオリンピックの競技施設のレガシーがあること、これを最大の強みとして我々のワーキングでは、「東京発のアースリバイバル」ということと、「オンリー湾のスポーツまちづくり」という2つの提案の柱を今回立てています。

1つ目の東京発のアースリバイバルですが、基本的な考え方としてSDGsを踏まえた地球環境の再生を象徴する未来型都市としてのリーディングポジションを確立し、国内外に発信するという内容になっております。その中で未来志向であるとか、地域への愛着、シビックプライドのようなものは非常に大事なキーワードになってくるかなと思っており、3つ具体的に挙げております。

1つ目が環境と食をテーマにした未来志向のエリア形成ということです。世界の環境を学習できるような大きな装置、ストラクチャーとして世界中の作物が育つ棚田のようなエリアのシンボルが設置できないかという提案です。また、その周囲には世界の食文化を体験できる施設を設けたり、あるいはそこで食品ロス、削減への意識啓発の場、環境学習とか環境教育のようなことができる場となることも想定されます。

2つ目は、水辺空間の魅力を最大限に活用するという一方で、水際に宿泊施設であるとか、レクリエーションのさまざまなアクティビティを創出したいと考えます。また、海からの景観形成も重要と考えています。例えば、東京ベイエリアの環境再生のシンボルとなるような巨大な緑、ここでは空中に浮かんでいるような緑を挙げていますが、さまざまな形態はあるかと思えます。そういった巨大な、目立つようなシンボルを東京港の入り口付近に設置するというのを提案しています。

3つ目は、愛着やつながりが持てるような環境の整備ということで、花や緑にあふれた霊園の整備や、あるいはまちの歴史、今の開発の状況、観光情報も含めて、来訪者をもてなすようなビジターセンターのようなものの整備ということを挙げております。

続いて2つ目の柱のオンリー湾のスポーツまちづくりですが、基本的な考え方としてオンリーワンを価値を発揮するスポーツコンテンツをベイエリアに集積させ、スポーツの産業と文化を育みたいと思っております。オリンピックを通じてさまざまなスポーツ施設、関連施設が整備されますが、そのスポーツ拠点や元々あるようなベイエリアならではの環

境とか空間、資源を活用した運動の場、機会というのがあると思います。そういったものに対して最先端技術であるとか、健康増進にかかわるような企業や大学などの集積を図っていく。このようなことを通じてスポーツ産業のクラスターを形成していきたい。ひいては滞在型のエリアになることで魅力的な宿泊施設もあわせて立地が進んでいくのではないかと考えております。

産業と同様にスポーツ文化の根付いたまちというのも目指したいと思ひまして、2040年代にはスポーツ文化が定着するような、このベイエリアというまちを、もう少し早い段階でできるかもしれませんが、目指していきたいと考えております。あとは、コンテンツ系ではあるのですが、例えば、エンターテインメント型のスポーツコンテンツを投入していくということで、日本らしさをモチーフとした新たなスポーツをつくり出していくということ。侍や忍者のようなものをテーマにしたもの、あるいは何か物を集めて、それをコンプリートすると達成だというようなミッション志向型のスポーツをつくっていく。そんなことも可能性があるのではないかなと思っております。

次の提案ですが、世界中のマイノリティスポーツをまるごと集積してはどうか。それは東京の多様性や包摂性を表現するという意味でも非常に大事ではないかと思っております。知名度は現状では低いですが、面白さを秘めたマイノリティスポーツや、オリンピックのレガシーとして世界が注目するアーバンスポーツ、障がい者スポーツの活動の聖地となる可能性があると考えております。競技の奥深さや面白さを発信する一大拠点として国内外の大会を通年で開催したり、認知度向上のための定着を図ったり、そのような取組を考えております。

次に、誰もが参加できるようなユニバーサルスポーツの一大拠点を提案します。現在、既に整備が多く進んでいますが、例えばランニングコースをもっとつないでいくということや、高齢者が気軽に体験することができるスポーツ環境の整備、あるいはデジタルとスポーツの組み合わせなど、さまざまな可能性があると思いますが、ユニバーサルスポーツというものをベイエリアで展開していけないかという提案です。

この「WGにおける主なアイデア」のスライドは、前回の提案で挙げた中でも比較的面白いものがあり、忘れないようにということでスライドに示しました。

最後にエリアの空間イメージということで、まず、第一に海からの景観を重視すべきということで、内海の一体感の創出をしていきたい。内海沿いのネットワークを図っていくことや、内海側にスポーツ関連のアクティビティを集積させていくことは大事だと

思います。また、国際客船ターミナルが整備されますので、これから多くの海外からの客船が来ます。その時に東京のゲートウェイとして、先ほど挙げた緑のモニュメントみたいなものをゲートウェイの位置に設置するということが重要だと思っております。

また、スポーツに関しては、比較的人が集まるエリアで、マイノリティスポーツの中でも、より人に見てもらうことが重要なスポーツを集める。さらにその外側のエリアでは、これから育てていくようなスポーツ、このスライドではインキュベーション型スポーツ空間と書いてありますが、その空間でスポーツが育っていくような環境をつくれなかと考えております。

また、棚田や霊園など、地区のシンボルとなるようなものは、海の森エリア、あるいは棚田に関しては多くの人が集まるような台場、青海のエリアに設置するのがいいのではないかと考えております。

以上になります。

【村木コーディネーター】 ありがとうございます。

それでは、議論に入りたいと思います。最初に少しコメントさせていただくと、2つのワーキングの提案を伺って、今のところキーワードとして重なっているものがあるなと思いました。それは、やはり「海」だから「水」ということと、オリンピックのレガシーになるもの、あるいは環境というのはすごく重要であるという印象を受けました。

特に岡村先生からオリンピックの後のスポーツという話が多く出ていて、レガシーという観点からは施設だけではなくて、マイノリティのものや、あとは障がい者向けのもの、こういったスポーツの聖地というお話があったと思います。新しいイメージをつくっていくという観点では、すごく大きいトピックを持ってきてくださったように感じます。スポーツのまちづくりを考えた際に、例えば先ほど中島先生のプレゼンの中にもあった、これからの開発を誘導したほうがいい場所が、今のところただ単に広大な駐車場であるなど、ほとんどイベントが行われない。そうすると、例えば最終的に開発を誘導するまでの段階的な活用の仕方、仮設でまちづくりを行ってから本格的に開発するなど、何かアイデアをいただくと、時間軸の中で使えるものをうまく使って、そして人が来るような形にして、次のにぎわいの開発に移っていく、そういうようなこともできるかなと感じたのですが、何かアイデアはあるでしょうか。

【岡村座長】 提案のエリアの空間イメージで、劇場型スポーツ空間と書いてあるのは、まさにそのイメージです。少しテンポラリーな使い方をしながら様々な人に見てもらうよ

うな場所をつくっていったらという考え方です。その空間で育ったスポーツが、例えば、オリンピックでつくられた恒久施設のような場所に今後展開していく。育てていくような場所としては、青海のエリアがなっていくというイメージは持っております。

【村木コーディネーター】 ありがとうございます。他に何かあるでしょうか。

【中島座長】 大変興味深く聞かせていただきました。提案の1つは、「スポーツ」、もう一つの提案の「環境」の中で農業の話が出てきたので、魅力あるまちづくりワーキンググループのプレゼンではうまく説明できなかったのですが、農というのがあるのではないかと。広大な土地や、一時的に使われずに駐車場になっている土地も含めてですが、農という機能で、農業でやっていると、例えば食文化にもつながる。ベイエリア野菜をつくれたり、あるいは緑化につながったり、色々考えられるのではないかと。農の特に畑というものをベイエリアの中でつくりたいかという議論を魅力あるまちづくりワーキンググループでもしていました。岡村座長のご発表では棚田の話だけがあったのですが、農というものをどういう風に位置づけているかや、どういうアイデアがもう少し展開できそうかという点について、もし議論があったら教えて欲しいです。

【岡村座長】 棚田以外、あまり議論されていないのですけれども、棚田については夢の島に植物園があり、そことの関係から少し広げていくというように、お台場などではなくて東側の、夢の島などもいいのではないかなという議論はありました。ただ、面的に農地を展開していくような議論はなかったのですが、どちらかというシンボルとしての棚田みたいな形から入ってきたところもあったので、少し今後検討はしてみたいと思います。

【村木コーディネーター】 ありがとうございます。松尾先生、何かありますか。

【松尾座長】 スポーツに関して、すごくいい方向だと思うのですけれども、一方で、スポーツという観点からは、何となく東京ベイエリアに閉じるというよりは、横浜や千葉など、周辺一帯を含めてという感じになってくると思うのですけれども、そのあたりはどう考えればいいでしょうか。

【岡村座長】 最初、モータースポーツのようなものをベイエリアでやったらという議論もありました。実際、横浜などはライバルであるとも考えていて、もう少し広く東京湾全体がスポーツなのだというアピールの仕方ももしかしたらあるのかもしれませんが。

【松尾座長】 ひとまず、ライバルだという位置づけでしょうか。

【岡村座長】 そうですね。はい。

【松尾座長】 分かりました。

【村木コーディネーター】 追加で何かありますか。よろしいですか。では、続けて最先端技術のまちワーキンググループからのご提案について、松尾座長、お願いいたします。

【松尾座長】 では、最先端技術のまちワーキンググループからのご説明をさせていただきます。まず、提案の方向性ですが、テクノロジーとエレメントを分けて議論をするという中で、特に技術者が集まる・育つというところを中心に、各シーンの中で「こうなったらいいね!」ということを考え、それを創造していくというようなアプローチで議論をしています。それを今日はご紹介します。色々なシーンが考えられると思いますが、4つのシーンを選び、それについて、技術の内容など各シーンを実現するためにどうしていけばいいかということをお話していきます。この4つというのは、羽田空港に着いた外国人の観光客、臨海エリアのタワーマンションに住む方、代々バイエリアで暮らす高齢者の夫婦、最先端技術とふれあいをする親子、という設定になっています。

まず、シーン1ですが、羽田空港に着いた外国人の観光客の方が、入国審査がすごい列だなと感じる。バイエリア観光に行きたいけれども、手荷物をどうしようか。日本語を話すことが難しく、うまくコミュニケーションとれるか、夜遊ぶ所があるのかと思っている。それが未来はどうかというと、羽田空港に到着して入国審査が生体認証で待つことなく通過します。荷物はAGV（自動搬送車）がホテルへ搬送してくれるので、手ぶらで水陸両用の無人運転車に乗ってお台場にいきなり行くことが出来ます。スマホの多言語翻訳アプリのおかげで、他の旅行者ともコミュニケーションしながら、言葉の壁を全く感じずに移動します。ランチはバイエリアにできたフードパークへ行って、そこではロボットがそのお客さんの情報等をもとにお勧めの料理を提案してくれて、自動で待つことなく非常においしいご飯が食べられます。夜はバーチャルナイトサファリに出かけよう。こういうシーンが想像できます。

そのために何が必要かということ、生体認証の技術、自動運転、食の自動化の技術、映像の技術が必要になってくる。また、仕組みや制度として必要なのは、例えば自動運転であれば、手続の簡易化、迅速化が必要になりますし、食の自動化で言うと、流通の情報や、個人の宗教・嗜好等の情報を提供することが必要になってきますということです。

今度、2つ目のシーンについて。安全・安心で環境にやさしいまちに暮らしたい。大規模災害時、バイエリアでは地震の揺れは大丈夫か。ライフラインが止まったら、電気、水、食糧は大丈夫か。バイエリア内のエネルギーは、エリア内で独自に作られていない、こういう疑問を持っている、あるいは希望を持っているような方がいることを想像しましょう

という中で、未来のシーンとして、タワーマンションの住人が、地震が起きたことを知った時のこと。ニュース速報で、都内で震度3と言っているのだけれども、実際には全然揺れなかったのによく分からなかった。このニュースをきっかけにすごく免震・制振ができていたのだなと実感した一方で、揺れに強いのはよく分かったけれども、電気とか水、食糧は大丈夫かなと疑問を持った。それで色々調べてみると、バイエリア内の電力は大型のクリーン発電所から供給されているので、環境にも優しいし、災害時でも域内で賄えるということが分かった。海水を飲料水に変えられるので、水に関しても大丈夫、食糧に関しても大丈夫だということが分かった。つまり、バイエリアは安全で、いざという時にも小さな地球として機能するんだなということを感じて、とてもいい所に住んでいるということが感じられた。

このために必要な技術としては、制振・免震の技術やクリーンエネルギーに関する技術が必要になります。それから、飲料水の確保や、エリア内の食品管理と分配も重要になってきます。また、仕組み・制度としては、バイエリア内のデータに関しては、データの取得、提供、開示、共有に関する要請やガイドラインが必要になりますし、そのサポートも必要になる。防災、安全に関しては、免震や制振の義務化、導入への優遇措置。それから、インフラの診断等を出来るように規制緩和、航空、港湾等の規制緩和というのにも必要になる。エネルギーに関しては、多目的な土地利用に対応できるような制度が必要になる。食糧に関しては、無線タグ等による電波使用、使用環境のガイドラインを整える必要がある。また、非常時における個別設備からの食糧、食品及び電力の提供の制度等を整える必要があるということになります。

今度、3つ目のシーンについて、下町に住む老夫婦が平日の昼過ぎに自宅の中でいきなり倒れてしまったという時にどうしたらいいかという、そういうシーンを想像しています。未来のシーンは老夫婦のもとに息子からプレゼントのお手伝いロボットがやってきました。息子から昨年送ったセンサー付き腕時計とお手伝いロボットがつながっていて、健康状態もAIが分析してくれるから良かったなということで、一息ついて部屋の片づけでもするかと階段を上った所、階段を踏み外して転倒してしまった。ところが、このお手伝いロボットがすぐに状態を確認して、データを病院へ送信してくれた。しかも、そのお手伝いロボットが主人を抱えて運び出して、そこにはもう自動運転の救急車が手配されていて到着していた。

それで病院へ行って大丈夫だったと、こういうシーンですが、この背景となる技術が、

色々な家事や介護をこなせるようなお手伝いロボット、それから、バイタルデータのオンライン化、生体データの蓄積、AI分析、予防診断という技術、更には自動運転の救急車、AGVという技術が必要になってくる。これを実現するための仕組み・制度としては、ロボットを色々な形で試験できるようなフィールドを確保する必要があり、そういう環境や実験場を提供する必要がある。法・制度に関しては、企業等が最低限守るべきガイドラインを設定して、その中で自由に開発をやりやすくする。それから、安全保障に関する制度も整える必要がある。また、ロボット法と書いてありますが、ロボットの定義と明確化が必要な法改正等が必要になる。それから、健康、ライフスタイルに関しては、生体データの取得や提供に関するルールや、インセンティブをつくる必要がありますし、その薬事法等の規制緩和というのにも必要になってくるということになります。

最後、4つ目のシーンについて。最先端技術とのふれあいということで、小さいうちから先端技術を学ばせたいけれども、どこに行けばいいのかなという時にバイエリアに来てほしい。このエリアはいつも工事をしているけれども、現場に人をあまり見かけない。どうやってつくっているのだろうというと、これは自動でやっているということなのですが、未来のシーンとしては、子供がバイエリアで行われるAIコンテストに出場する。会場は新海面処分場に整備された最先端技術の研究エリア。今やこのエリアではAIコンテストが開かれて、そこが若手技術者の登竜門になっている。前回のコンテストは親子部門で出場して、今回は自分1人で、小学生部門で挑戦する。自動建設現場では、技術を育てるという観点からは、このエリアでさまざまなイベントが月1で開催されていて、会場設営がいつも行われている。工場に関する申請も電子申請で速く、工事も最適化された設計、作業工程になっており、しかも、自動の建設機械であつという間に整備してくれる、こういう風に変わっているとといったことです。

必要になる技術としては、AIコンテストに関しては、最先端技術の研究が行われている。それから、若手の技術者が集まって、ロボットの研究だけではなくてソフトウェアの研究も行われている。それから、自動の建設に関しては、IoT技術によってネットにつながって情報が共有されている。それから、測量などもデータベース化されており、自動建設は安全にますます進んでいる。とともに、未利用地域の有効活用が進んでいる。そのために必要な仕組み・制度としては、AIロボットコンテストをやるために、例えば運営費等の確保や、企業に投資してもらうような仕組みが必要になる。自動建設に関しては自動建設技術自体をさらに深める必要がありますし、自動申請の手続の簡素化、あるいは法

整備などが必要になるということになります。

それから、最先端技術の研究エリアということで、エリア全体で技術をマネジメントする組織も必要になりますし、実証実験のフィールドを整備する必要もあるということです。また、テクノロジーのショーケース化という意味では、テクノロジーを発信し、生み出す人、活用する人材の育成も担っていくことになります。というわけで4つのシーンを想像したわけですが、ここに出てくる色々な技術というのがどういう分野か、それから、どういう目的に用いるかということマトリックス状に描くことができ、これらの技術をしっかりつくっていく必要があります。

一方で、仕組み・制度をそれぞれのシーンで話してきましたけれども、個別の話も必要ですし、それから全体としては、技術をマネジメントするような組織、そのエリアのCTO（最高技術責任者）のようなものや、迅速にルール設定を行えるようにする仕組み、実証実験をやりやすくするようなオープンエリア化、安全の保障を担保するような仕組み、イノベーションを加速するインセンティブ、テクノロジー全体のショーケース化、こういったことが必要になってくる。要素技術と仕組みの掛け算によって持続可能な社会の実現、制約からの解放というコンセプトを実現していきましょと、このような内容になっております。

以上です。

【村木コーディネーター】 ありがとうございます。提案シーンをつくられたことによって、かなり分かりやすい、イメージがしやすいような提案になっていたと思います。ディスカッションさせていただきたいと思いますが、私から言わせていただくと、最先端の技術を使ってどういう暮らし方ができるのか、どんな実験の可能性があるのかを考える際にとっても重要だったのが、シーンのイメージだけではなくて技術の提案、それを実現するための仕組み・制度の提案までであることが大きなポイントになっていると思いました。

シーンそれぞれがとても魅力的に感じたのですが、中でも今ある技術またはすぐできそうな技術を使って日本が、東京が最先端だということを実現するには、制度をつくっていくことや、法の整備など色々あるのかもしれませんが、これをやるとよりいいぞという目玉になるものは何だと思えますか。

【松尾座長】 やはりシーン1が、海外からの見え方としては一番分かりやすいと思うので、羽田から直行でお台場に遊びに来られるというところは比較的技術としてもやりや

すいような気がしますし、この辺がいいのかなとは思いますが。

【村木コーディネーター】 そうですね。水陸両用車はお台場で走っているのですけれども、どこを走っているのか分からないのですけどね。

【松尾座長】 そうですね。

【村木コーディネーター】 そういうものの活用をもっとうまくやりながらと考えていくと、目玉になる可能性がありますかね。

【松尾座長】 そうですね。トランジットの時間などに立ち寄ってもらうという可能性はあるのではないかと。荷物の話もそうですし、お台場に来てねという、何かそういう取組はとてもやりやすいのではないかなという気はします。

【村木コーディネーター】 はい。あと1つ思ったのが、補助や協定には結構時間がかかると思うのですが、時間がかかるものと、一方で技術は最先端で進んでいくと思うので、その辺のすり合わせや、あと一度提案したものの見直しみたいなことをどういうタイムスパンで考えていくのが良いでしょうか。

【松尾座長】 多分、きちんと法律を整えていくという面と、色々な活動をやりやすくする面と両面あると思うのですけれども、基本的には初期にはやりやすくした方が良いでしょう。色々な実験をできるように、実験を促進するような意味での規制緩和的なものとか、ガイドラインの整備のようなことに取り組んでいく。そのうち、技術が進んでくると、自動の建設や、お手伝いロボットのようなものを使って貰えるようにしっかり法律を含めて定めていくという、そのような方向性なのかなと思います。

【村木コーディネーター】 つまり、まずはこの地域で実験を促進する。実験がフリーにできるということが非常に大事だと、そういうことですね。

【松尾座長】 はい。そう思います。

【村木コーディネーター】 はい。分かりました。他にご意見、いかがでしょうか。何かありますか。

【中島座長】 非常に面白く聞かせていただいたのですが、このベイエリアは小さな地球だという概念は良く分かるのですけれども、ベイエリアで完結したほうが良いものと、何かもう少しオープンに、もっと大規模に展開したほうが良いのではないかと。何かがあるのではと思います。全てが何か閉じられた地球の中にあるというのは、何となく違和感もあるなと思ったのですが、サービスみたいなものの展開、例えばエネルギーなどでは、ベイエリアだけというよりも、もっと広く展開したほうが良いのではないかと。例

えばそのような議論はありましたか。

【松尾座長】　そうですね。この2番のシーンについては、シーンを想像するのが若干無理やりなところがあって、そういう意味では、小さな地球として完結していることが確かにコンセプトとしては面白いのですが、それが住人にとって魅力的なのかとなると微妙なところがあるなというのは、シーンを書いてみて初めて出てきたのかなと思います。おっしゃるとおり、お台場の中で完結する必然性があまり、住民にとっても観光客の方にとっても感じられないのであれば、あまり含める必要はないのかなと。むしろ、もっと価値を実感しやすいような形にしたほうが良いという面もあるのかもしれないと思いました。

【中島座長】　分かりました。ありがとうございます。

【岡村座長】　1つよろしいですか。色々なステークホルダーが必要だと思うのですが、企業と東京都と、他に国があるとしたら、内容によって違うかもしれないのですが、東京都だけの頑張りでは当然だめですよ。どれくらい企業が頑張ると、国が頑張るという点は、感覚的にはどのように感じていますか。

【松尾座長】　色々な実験をやりやすくするなど、そういう雰囲気をつくっていただけても大きな影響はあると思います。そうすると、企業がここでやってみようとか、あと若い人が、ここだったら色々な実験ができそうだからやってみようとなってくると、活力も出てくるのではないかなと思いますので、東京都が動いて企業が動くということかなと思います。国のほうはやはり、なかなか動きとして難しいところもあるので、東京都が先行の事例を示すことによって、また国も動いていくという感じになるといいのかなと。

【村木コーディネーター】　どうぞ。

【中島座長】　今のお話に関連してなのですが、最近だと、例えばGoogleやAppleなど、自社で全部、都市空間も含めて1つの主体で全ての技術を大きな場所で展開したいという要望が強いと感じるが、今のベイエリアは、そういう点で見ると少し面倒くさいのではないかな。色々な主体がいて、規制もあるとなる時に、全面展開で、自分たちで全てマネジメントできる所でやる実験と、今回の提案との差、あるいはベイエリアとの優位性については技術的にどのように考えますか。

【松尾座長】　やはりどの主体がその実力を持っているかによると思います。GAF Aはとにかくキャッシュがあるので、民間の開発予算が2兆円から3兆円という世界ですから、色々な実験ができますし、自社の中で完結するということなのかなと思います。一方で中国などではかなり国の関与は強くて、都市ごとに国がこういう風にここを使おうと決

めて、相当な予算を投入していたりということをやるので、いずれにしても、それだけの力を持ったプレイヤーが動くということが必要なのかなと思います。

そういう意味では、日本においては例えば国はもちろん色々な意味で影響力はありますが、思い切ったことをやりにくい面はあって、一方で企業のほうも、G A F Aほど資金が潤沢で色々なR & Dに投資できる所はもう少ないですから、そうするとやはり東京都が中心になって、このエリア全体でというやり方をするのがある意味で最善なのかなとも思います。

【中島座長】 そのことが、G A F Aのやるようなものではない、何か違うイノベーションや優位性が働けばいいですね。むしろ、色々な主体があることがプラスになると良いと思います。

【松尾座長】 そうですね。

【中島座長】 お金がないほうが工夫するということもあるかもしれませんね。

【松尾座長】 でも、大体のことはお金があったほうがいいので難しいですが、やはり文化の側面など、色々な顔があり、バイエリアとしてS・M・Lのまちのスケールの話もそうですけれども、色々な地域的な側面がある中でできるというのはいいことだと思いますし、本当に優秀な人はやはりG A F Aみたいな企業でやるよりは、自分が主体的にやりたいという人も中にはいるので、そういう人にとって魅力的な場所になるといいのかなと思います。

【村木コーディネーター】 何か今の話をお伺いしていて、やはりお金はあったほうがいい。そうすると、稼ぐ地域であるということも、それに投資するというのもストーリーとしてあり得るのかなという感じもしました。他、いかがですか。よろしいでしょうか。

それでは、本日のまとめとして庁内検討委員会への提案内容の検討に移りたいと思います。皆様からのご報告を聞いて、バイエリアにおける官民連携チームからの提案は、大きく4つの視点で整理することができると思いました。まず、第一にバイエリアの強みを生かして個性を磨くということ。第二に、バイエリアの発展を支える基盤を充実、強化させていくということ。第三に、新たな技術、産業、文化、人材を持続的に生み出していく仕組みをエリア内に組み込んでいくということ。第四に、サステイナブルな社会を象徴する場としていくこと。

この4つの視点をもとに各ワーキングからの提案を整理した上で、庁内検討委員会に提案を行いたいと考えていますが、いかがでしょうか。

【岡村座長】 村木先生がおっしゃっている、「世界から人と投資を呼び込む」というようなキーワードを盛り込んだ方が良いと思うのですが。

【村木コーディネーター】 そうですね。世界から人と投資を呼び込むというのは、提案の4つの視点全体にかかわることなので、提案の視点の部分の最初に記載する形にさせていただきます。

【松尾座長】 R & Dを進めやすくするための規制緩和などに該当するようなものが、提案の視点（3）にあるといいのではないのでしょうか。

【村木コーディネーター】 技術や産業だからそうですね。R & Dを推進させる規制緩和のような内容を追加したいと思います。他にお気づきのところ、いかがでしょうか。

【中島座長】 色々な国籍の人が楽しめるとか、あるいは国籍だけではないのですが、多様性というキーワードが提案の視点（3）にあってもいいかなという気がします。ベイエリアは、ある意味で無国籍的なところが少しあるという気がしていて、多様性の視点が、今回の整理ではあまり見えないような気がします。

【村木コーディネーター】 今のお話は、提案の視点（3）を多様性というキーワードで整理するということですが、それを支援するのが今日の松尾先生のご提案とも重なりますね。

【中島座長】 国際客船ターミナルの整備も、無国籍なものや、多様性を受け入れるということにつながってくると思っています。

【岡村座長】 あとは、スポーツの話もマイノリティスポーツや、ユニバーサルスポーツなども、まさにそのような話なのだと思います。

【中島座長】 そうですね。それもありますよね。

【村木コーディネーター】 そうすると、提案の視点（3）のところにマイノリティスポーツなどが入っていないのが、提案として足りない部分ですね。

【中島座長】 そうですね。

【村木コーディネーター】 「スポーツを通じたまちづくりによる、産業と文化の育成」というかなり丸い表現になってしまっているのもう少し尖らせた内容にしていくことが重要かもしれないですね。ワーキンググループで出されていた内容のほうがより尖っていて、整理したことで平坦で丸い表現になってしまっている。もう少しキーワードを元に戻す方がいいと思いますが、他にはないのでしょうか。

【岡村座長】 「人材を創出する」とありますが、「受け止める」というようなキーワー

ドのほうが適切ではないでしょうか。受け止める話と、そこで育てていくという話と、両方あると思っています。

【村木コーディネーター】 そうですね。

【中島座長】 オリンピックやパラリンピックのレガシーというのは、まさにそのことで、多様性が重要と思います。単なるスポーツや施設だけではなくて、考え方も含めてレガシーと考えると、やはりもう少し強調したほうがいいですよ。

【村木コーディネーター】 そうですね。あと、提案の視点（２）で自転車や舟運の話が出ていますが、「回遊性の確保」という形ではなく、もっと尖らせて「内海ネットワーク」のような表現のほうが、強いアピールができると思います。

また、「文化、エンタメ、芸術、食」というのも、もっと尖らせてMICE、IRとここに書くというもあり得ますよね。各ワーキンググループの提案内容のエッセンスが、提案の視点としてまとめられています。強調してほしいと思われることをキーワードとして入れていったほうが、インパクトが残ると思います。

【松尾座長】 魅力あるまちづくりワーキンググループでのLLPや、私のワーキンググループでの、エリア全体で技術をマネジメントする組織やCTOのような話は、人と投資を呼び込むことに直結すると思うのですが、提案の視点の４つに収まらない気がします。

【村木コーディネーター】 ここに収まらないものがあるとすると、提案の視点（５）をつくれますか。どう思いますか。

【中島座長】 都市経営というか、要するに経営の問題ですよ。それが非常に大事なので、色々夢は語るけれども、財政的なサステナビリティなのか、経営感覚で取り組むべきことの話をもっと打ち出してもいいのかなと。

【村木コーディネーター】 そうすると、都市経営など規制緩和とも関係してくるということですね。

【中島座長】 そうですね。お金がすごくかかってできないのではとか、投資の前にそもそもの話になる。

【村木コーディネーター】 そうすると、経営の中には規制緩和の話も出てくるし、先ほど出てきた運営の仕組みやエリマネ、お金の話がこちらの視点（５）に入るかもしれないですね。提案の視点の最後を（５）都市経営という形でまとめると、提案として強いものになるのではないのか、そういうことですね。

【中島座長】 はい。

【村木コーディネーター】 はい。まとめると、最初に（１）として個性を磨くというのがあって、（２）に基盤の話、（３）に技術、産業、人づくりやコンテンツ、（４）にサステイナブルで、最後が（５）都市経営。今のところ、このような形でご意見が出ました。修正したものを検討して、先生方に一度お返しした上で東京都のほうにお出しするということにさせていただいてよろしいですか。

（「はい」の声あり）

【村木コーディネーター】 ありがとうございます。

また、今後の進め方についてですが、これまでの検討を踏まえて2040年代に向けて取り組むべき事項を明確にした上で、成長を牽引する具体のエリアにおける土地利用、これが結局、今日出てきた最初に投資をすべきような場所のもう少し詳細な土地利用のあり方、それから規制緩和、これは開発もそうですし、今日提案のあった最先端の技術などの導入という観点もあるかと思えます。これらについて更なる検討を進めていただきたいと思いますと思いますが、よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

【村木コーディネーター】 また、今後の検討について、どのようなイメージで進めていくかといった時に、今日、ワーキンググループからの提案で具体的な図面が出たのが、魅力あるまちづくりワーキングと、活力と躍動感のあるまちワーキングだと思うのですが、これを２つ重ねると、それなりにカバーされると感じました。

あとは、松尾先生の言われていた最先端技術の提案等は、土地利用や、全体の将来イメージといった時に展開するような場所のイメージみたいなものがあるのでしょうか。私は、最後の提案、それぞれのワーキングの成果ももちろん大事だと思うのですが、１枚の地図にまとめると、より理解しやすいと思うのですが、どうでしょうか。

魅力あるまちづくりワーキングの地図と、活力と躍動感のあるまちワーキングの地図を重ねると、それほど齟齬がないように見えるんですね。それが詳細になる。もう少し欲を言わせていただくと、魅力あるまちづくりワーキングの中で、さらに投資を呼びたいところをもう少し細かいゾーニングしたようなものがあると、何かやる気が、東京都、湧いてこないかなという感じがするのですが、どうでしょうか。松尾先生、何かイメージがあるのでしょうか。

【松尾座長】 例えば自動翻訳の技術などは、場所はあまり関係ないので、場所にかかわるものとかかわらないものがある最先端技術の話は、少し難しいと思いました。

【中島座長】 岡村先生の活力と躍動感のあるまちワーキングと、私の魅力あるまちづくりワーキングの地図は、そろそろ重ねてみたらいいと思うんですね。今日聞いている限りでは、矛盾はあまりないというか、うまくおさまりそうだと感じました。

【村木コーディネーター】 そうですね。

【中島座長】 あと村木先生がおっしゃったように、我々が「東京臨海リング」と呼んでいる内海エリアについては、もう少し詳細に、スケールを拡大して検討してみたいと思っています。

【村木コーディネーター】 はい。ありがとうございます。この内海エリアの所にシャトルフェリーを出すとか、かなりイメージが湧きやすく、水があるのにうまく使えていない場所にどのように人を行きやすくさせるなど、ワクワク感をつくっていくという観点が必要ですよね。それに加えて、船の活用や、荷物を運ぶようなドローンの話など、色々な展開の可能性というのがあるので、最終的に1枚の大きな図に盛り込めると、非常に理解しやすく魅力のあるベイエリアの将来像ができるという感じがしますが、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【村木コーディネーター】 ありがとうございます。

では、事務局から連絡事項をお願いいたします。

【伊東計画担当課長】 ありがとうございます。事務局からご連絡させていただきます。本日の議事につきましては、皆様にご確認をいただいた上で会議資料とあわせて後日、ホームページ上に公開させていただきます。

以上をもちまして、東京ベイエリアビジョンの検討に係る官民連携チーム、第2回総括会議を終了させていただきます。本日は、誠にありがとうございました。

— 了 —